

先生は「仲良くしろ」というけれど…… いったい、どうやって？

にほんごをかんがえる2

日本語がわからない転校生と やさしい日本語を使って 仲良くなるための本

著者：一般社団法人 外国人の子供たちの就学を支援する会



どうして日本の学校に通っているの？

学校でずっと黙ってるけど、大丈夫なのかな…？

取り出し授業「日本語クラス」って、なにを勉強してるの？

生徒たちの素朴な疑問に答えます！

イラスト：KEIKA

デザイン：大滝奈緒子 (blanc graph)

B5判 上製 48頁 フルカラー 定価：本体 3,000円＋税

ISBN978-4-8433-7377-4 C6081

ゆまに書房



< 物語 >

とある公立中学校に通うはるのクラスに、インドからアリヤという転校生がやってきました。

どうやら日本語が話せないようです。

いつも一人で過ごしているアリヤのことが、気になっています。自分にも手伝えることがないのだろうか。

はるは、日本語教師のようにここに導かれて、海外にルーツのある児童生徒の状況や、アリヤの日常を知っていきます。

そして、少しずつ行動を変えて、アリヤと友達になっていきます。

自己実現のための日本語

ここまで、「サバイバル日本語」や「学校で勉強するための日本語」についてみてきました。それ以外にも、外国ルーツの子どものために、日本語にはもうひとつ大切な役割があります。それは、自分の考えを伝えたり、自分の夢を語ったり、自分らしく生き残るための言葉になるということです。

ここでは、ロシアで生まれ、6歳のときに日本に来た小原ブラスさんに、ご自身の経験を通して今感じていることをお話していただきます。ブラスさんは、外国ルーツの子どものための日本語を支援するための「1人100時間プロジェクト」の活動を続けています。

言葉が増えると、できることも広がっていく

たとえば、サッカーが好きな子がいたら、日本語がわかることでチームに入れるかもしれません。

将来、お医者さんになりたいと思ったら、日本の学校で勉強して、その事に近づけることもできます。

言葉があると、自分のやりたいことに挑戦できるようなります。

だから日本語は、ただ生活するための言葉ではなくて、自分の未来を広げる力でもあると思っています。どんな子どもでも、「ここにいていいんだ」と感じながら、自分のやりたいことに挑戦できる社会がいいと思っています。

そういう社会は、外国人にとってだけでなく、日本で生活する全ての人にとっても、生きやすい社会になるはずです。

日本語ができるかどうかは、生活や勉強に影響があるだけではなくて、やりたいことに挑戦できるかどうかにかかわってくるのです。

ブラスさん、貴重なお話をありがとうございました。

今更な話 小原ブラスさん

株式会社Almost Japanese 代表取締役
一般社団法人外国人の子供たちの就学を支援する会 理事
関西育ちの外国人タレント/コラムニスト
ロシアのバロフスクで生まれ、6歳のときから兵庫県神戸市で育つ。
コナラの園芸科を専攻外国人というインパクトに加え、「めんどくさい」「ひねくれ者」と呼ばれる程の独特の個性を活かしたコメントが彼の魅力。ライブ活動から政治・社会問題まで幅広く取り上げ記事を執筆、テレビコメンテーターとしても活躍。

▲ 2章より、6歳で来日した小原ブラスさんのインタビューを掲載。30%縮小。

6 伝えたかどうか確認しよう

短い文章や簡単な言葉、クローズドクエスション、「待つ時間」をうまく使うことで、会話のキャッチボールが楽になりました。

次は、おたがいに「よかった、伝わった！」とスッキリした気持ちで会話を終えるために、「伝わったかどうか最終チェック」をしましょう。

みんな伝わったかを確認しよう

一生懸命説明したあと、つい「わかった？」と確認したくなりますよね。でも、「わかった？」と聞かれた相手は、本当は理解できていなくても「はい」と答えてしまふことがよくあります。「わからない」と言うのが申し訳なかったり、聞き返すのが恥ずかしかったり、あとで自分でなんとかしようと思ってしまったり。

「答え合わせ」の質問

日本語のクラスでは、相手が理解できたか確認するときに「大事なところを、相手に聞ってもらおう」という方法をとりまします。たとえば、明日の集合時間を伝えたときは、このように確認します。

日本語教師 明日は10時に集まってくるの？

日本語学習者 明日は、何曜日に集まってくるの？

日本語教師 10時です！

このように、相手から「10時」という答えが返ってきたら、間違いなく伝わっていることが確認できます。これなら、リラックスした気持ちで「答え合わせ」ができます。

今日の放課後、一緒に図書室で勉強しませんか？

勉強するときは、どこですか？

勉強するのはいつですか？

はい！そう。あとで会いましょう！

はい、しましょ。

図書室です。

今日の放課後です。

▲ 4章より、確認のための質問。30%縮小。

< 本書の内容 >

- 1章 日本語学習が必要な児童生徒はどのような人たちだろう
全国で日本語学習を必要とする児童生徒は、何人いる？
ひとつの学校に日本語学習を必要とする児童生徒は、何人いる？
「不登校」ではない「不就学」とはどういうこと？
日本の小学校と中学校の制度はどうなっている？
- 2章 日本語学習が必要な児童生徒が学んでいる日本語の種類
毎日を安全に過ごすため、サバイバル日本語
学校に通うための日本語、科目を学習するための日本語
自己実現のための日本語、自分のルーツにつながることも大切！
- 3章 外国語として学ぶ日本語の特徴
- 4章 今日からできる！やさしい日本語を使ってみよう
- 5章 かつて日本語がわからない子どもだった大人からのメッセージ

ゆまに書房

〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-7-6

TEL:03-5296-0491 FAX:03-5296-0493 WEB:<https://www.yumani.co.jp>

ご注文文書

にほんごをかんがえる1
未来のわたしへ
やさしい日本語スタートブック

好評発売中

著者：ひらがなネット株式会社
B5判 48頁 定価:本体2,800円+税
ISBN978-4-8433-7145-9 C6081

部

にほんごをかんがえる2
日本語がわからない転校生と
やさしい日本語を使って仲良くなるための本

26年9月末刊行

著者：一般社団法人
外国人の子供たちの就学を支援する会
B5判 48頁 定価:本体3,000円+税
ISBN978-4-8433-7377-4 C6081

部

にほんごをかんがえる3
いのちを守るやさしい日本語

26年9月末刊行

著者：黒田友子
B5判 48頁 定価:本体3,000円+税
ISBN978-4-8433-7378-1 C6081

部

ご注文日	お名前
年	ご連絡先
月	
日	

取扱店